

社会福祉法人

豊心会

令和2年度  
事業報告書

令和3年5月21日作成

## 令和2年度事業報告【総括】

### ① 事業所別予算に対する実績

	令和元年度		令和2年度	
	予算達成率	稼働率	予算達成率	稼働率
特 養	102.7%	98.0%	101.0%	97.6%
ショート	96.9%	93.6%	100.8%	93.0%
デイサービス	100.9%	72.3%	88.7%	71.5%
居 宅	113.3%	延べ人数 476 人	91.4%	延べ人数 916 人
訪問看護	124.4%	総訪問回数 927 回	94.6%	総訪問回数 2,852 回
配 食	117.6%	総配達数 11,256 食	112.2%	総配達数 14,584 食
合 計	102.4%		98.4%	

### ② 運営

令和2年度は当初予算の達成には至らなかった。考察として、コロナ禍における利用控えや感染症対策による事業の縮小、外部研修等の日程変更などが、カラフル大輪町の在宅サービス部門に大きな影響を及ぼしたことが主たる要因と考える。その他、事業上の営業活動も連携先の担当者等がコロナ禍で面会できないという課題もあり、書面送付での情報提供を行うなど、新規利用に向けたアクションに努めたが、十分な結果に繋がらなかった。

このような状況の中、特養及びショートステイでは高い稼働率を維持しつつ、配食サービスを含め概ね予算を達成した。法人全体の介護保険収益及び医療事業収益は、前年度と比較し4,181万の増となったが、当初予算には至らず、一方で支出はコロナ禍の影響もあり、当初より1000万円程度圧縮されたが、厳しい1年となった。

また、慢性的な人手不足にある業界の中で、新卒者に対する採用活動は、コロナの影響もあり、県外在住の学生が、県をまたいだ就職活動を自粛している状況もあり、反応が皆無に近い大変厳しい状況が続いていると同時に、市内でも複数の介護事業所等が人的要因による廃止または休止となっており、厳しい経営環境下にある。

従って、今後もさらに利用者・求職者から選ばれる事業所づくりが求められる。引き続き、感染症対策に万全を期して事業継続を確実に進めるとともに、ウィズコロナ及び2024年以降を見据えた、当法人に対する発展的なアクションを起こしていくことが重要と考える。

※法人本部及び各事業所別の報告等

**【法人本部】**

理事会

- ①第94回 理事会 令和2年5月1日(金) 感染症対策により書面決議
- ②第95回 理事会 令和2年5月29日(金)
- ③第96回 理事会 令和2年12月25日(金)
- ⑤第97回 理事会 令和3年3月26日(金)

監事監査

- ①監事監査 令和2年5月22日(金) 特別養護老人ホーム

評議員会

- ①第9回 定時評議員会 令和2年6月22日(月)
- ②第10回 臨時評議員会 令和3年1月20日(水) 書面決議
- ③第11回 臨時評議員会 令和3年3月26日(金)

※第94回理事会及び第10回臨時評議員会を除き(感染状況を鑑みて書面決議)、島根県営住宅松江大輪団地内集会所にて開催

各種登記手続き

滞りなく実施

**【特別養護老人ホーム】**

今期退所者は前年度より5名多い16名、うち着取りが昨年より4名多い9名となった。また、退所から次の入所までの平均日数は前年度10.18日であったが、本年度は平均13.18日となった。主な要因として1月に3名の退所があり、調整に時間がかかったこと、入所直前に体調不良によって延期となったことなどがある。しかしながら、コロナ禍で業務に様々な影響がある中、安定した高い稼働率を維持できたと考える。今後も引き続き入退所マネジメントに努めるとともに、感染症対策を万全に講じながら、利用者の「その人らしさ」を感じる生活の支援に向けて取り組んでいく。

**【ショートステイ】**

コロナ禍でも安定した稼働率を維持、令和2年度も9割台を達成した。空床利用は前年度34日から28日と減少したが、特養と連携しつつ、的確に利用調整を行えた。

前年度に引き続き、他施設が断った利用者の受入、点滴・インスリンへの対応、夕方退所後の入所や、送迎も365日対応した。こうした取組が地域の利用ニーズにより応え、安定した稼働率を維持できた要因と考えられる。特養同様に24時間シートの運用や個々のアセスメント表を作成し、統一したケア及び自立支援を行いつつ、居宅でのご様子や環境なども聞き、入所前の居室準備やケアに活かすなど個別ケアの充実に努めた。今後も関係機関との連携を強化しながら、スタッフ一丸となって取り組む。

### 【デイサービス】

定員 30 名となり、稼働率は前年度の 72.3%に対し、71.5%であった。(年間の利用延べ総数は 7,670 名)

サービス面では、プログラムを充実させつつ、機能訓練は機能訓練指導員が兼務を含む 2 名体制で機能訓練加算Ⅱを実施、量・質ともに充実を図った。

しかしながら、コロナ禍の影響を受け、利用の中止も多くあり、1 月以降はコロナ対策として 25 名定員にしたことで、予算達成には至らなかった。また、お泊り事業も年間の利用延べ総数が 814 名、平均稼働率 31% (1 日約 2 名) となり、目標の 1 日 4 名には至らず低迷となった。

### 【居宅介護支援事業所】

3 名体制となり、特定事業所加算Ⅲを算定。24 時間の連絡体制を整え、週 1 回の会議、計画的な研修の実施、地域包括支援センター等が実施する事例検討会への参加等を行った。松江市全域を営業エリアとしたことで新規相談件数は増加したが、支援の受け持ち件数は上限に達したことで、城北公民館区と北田町、南田町限定とし地域を絞る等、事業所内で取り決めを行い、可能な範囲で支援の新規相談へ対応。

今後も、地域の公民館活動・なごやか寄り合い等への参加及び出前講座の開催等を通じて地域アセスメントを行い、その地域にあったサービスや地域の仕組みづくりによる、地域課題の解決に努めつつ、当法人が掲げる「地域共生社会実現に向けた取り組み」を進めていく。

### 【訪問看護ステーション】

24 時間 365 日「断らないステーション」として活動。前年度に引き続き、事業所の礎を築く 1 年として、事業所の理念を共有しつつ、スタッフの資質向上に向けた事業所内勉強会や外部の研修会への参加など人材育成に努めるとともに、関係機関には、事業所及び各スタッフのもつ強み(得意分野)を積極的にアピールしつつ、顔の見える関係づくりに努めた。中でも、1 名が褥瘡管理関連及び栄養と水分管理に係る薬剤投与関連の特定行為が可能な特定看護師となり、当ステーションの強みが増した。今後は各医療機関との連携を図りつつ、特定看護師の活躍の場を模索していく。

また訪問リハビリは担当を固定せず、複数スタッフで訪問し評価、ディスカッションするように努めたことにより、多角的な視点で利用者へ介入、満足度を高めることができたと考える。

年間の看取り件数は 4 件、実利用者数は前年度の 26 名から 40 名まで増となった。課題として、現状 1 時間の訪問を基本としているが、30 分訪問の依頼が多い現状により、収入に伸び悩みがある。引き続き法人内外の関係先との連携を更に深め、更なる利用拡大に向けて、看護・リハともにできることを増やしていく。

### 【配食サービス】

当法人の独自のサービスに併せ平成 30 年 9 月から松江市食の自立支援事業を受託。両事業合わせ 1 日平均 42 食、年間 14,584 食(前年度より 3 千食以上の増)の提供を 365 日体制で行った。

独居により食事の用意をすることが困難な方、療養食やゼリー食などの特別食を必要としている方、家族の不在時の利用、ヘルパーが入る日以外の利用、土日の配達をしていない他業者との併用、食事形態の調整や定期的な見守り・服薬の確認、食事の温め等をニーズに応じて実施した。

救急対応及び119番通報や担当ケアマネ等への連絡、安否確認を含め、今後も“地域の目”としての機能を果たしていく。

### ③ 地域における公益的な取り組み

松江市内の中学校に出前授業を実施する「介護の基礎的講座」に福祉のお仕事コンシェルジュとして5名を登録し派遣、講義及び体験学習を実施した。この他、地域福祉の発展に向けて、講師の派遣等を無料で提供し、関係機関及び地域住民との連携強化に努めた。また3月から11月の間、古江公民館の清掃ボランティアに参加した。

#### ●出前講座・講師の派遣

- 8月 3日(月) 古江公民館 古江地区福祉推進員の研修会(法人事業説明)
- 9月16日(水) 母衣小学校(体験学習:3年生)
- 10月 9日(金) 城北公民館 フレイル測定活動
- 10月10日(土) 城北公民館 出前講座(栄養)
- 10月19日(月)~21日(水) 松江一中(体験学習:3年生)
- 10月20日(火) 松江1中 キャリア学習講師(3年生)
- 10月24日(土)25日(日) 城北公民館文化祭へ職員派遣(会場運営)
- 11月 5日(木) 松江市民生児童委員協議会 高齢者福祉部会へ出前講座
- 11月 6日(金) 島根大学教育学部附属義務教育学校(講義:7年生)
- 11月16日(月)~17日(火) 島根大学教育学部附属義務教育学校(体験学習:7年生)
- 11月24日(火) 城北地区民生児童委員協議会 研修会(法人事業説明)
- 12月 9日(水)『まつえ「子ども夢☆未来」塾』講師(来待小学校)
- 2月 5日(金)『まつえ「子ども夢☆未来」塾』講師(島根小学校)
- 2月 9日(火) 松江三中(体験学習:2年生)
- 3月11日(木) 黒田西原なごやか会 出前講座(認知症サポーター養成講座)
- 3月12日(金) 城北公民館 ふれあいサロン 出前講座(介護予防)

### ④ 感染症対策

令和2年度はインフルエンザ等の感染症蔓延はなかった。新型コロナウイルス感染症への対策として、予防策の徹底、マニュアルの策定、衛生機材等の購入やガウンテクニック、ゾーニング、演習(シュミレーション)等、様々に研修を実施した。利用者の生活、家族等との面会、外部業者の立入、職場内外の行動範囲など様々に制限が入り、生活や業務には様々に環境変化が生じている。

地域の状況をモニタリングし、その都度、必要な体制を整備できるよう、対策マニュアルを随時更新しつつ、BCP(事業継続計画)に必要な対応を現場及び経営の双方で構築する必要があることから、次年度の感染症対策委員会にて引き続き検討を進める。

## ⑤ 防災

火災や土砂災害等に関する定期訓練を実施しつつ、これまで震災編のみであったBCPを、火災・土砂災害・風水害・原子力・雪害や感染症といったあらゆる事態に対応可能とするBCPとするため、平成29年度よりBCP検討会を立ち上げ、令和元年6月に内容を一部再策定した以降、継続的な協議を進めている。また、各拠点における、災害対策に必要な資機材等の選定を進め、令和2年6月に下記表の通り整備を行った。

原子力災害に関する避難訓練は、午前中に業者による陽圧化装置の定期点検を実施し（外部業者による点検は屋外にて実施）、午後より原子力災害への初動対応、施設の陽圧化（アラランチの稼動・養生等）についてコロナ禍を鑑み、訓練の記録画像及びマニュアルを使用した研修を実施した。

また、原子力災害に伴う非常時の備蓄食（5日分）について、これまで島根県が一括管理してきたが、在庫スペース及び消費期限到来のタイミングに合わせて各施設での管理となり、明翔苑1階ホール内に設置用の什器等を整備し、通常の備蓄食と併せた8日分の保管・管理を開始した。

災害対策整備品一覧

拠点	品名	数量	単位
明翔苑	エアークッション 簡易エアーマット	50	個
	防災用折りたたみ水タンク 10L	30	個
	非常用浄水器（手動・蓄圧式、フィルター×1）	1	台
	非常用浄水器交換用フィルター	1	セット
	エマージェンシーブランケット	100	枚
	簡易トイレ薬剤・衛生袋セット汚物（尿尿）処理剤一式200回分	2	箱
カラフル大輪町	300ルーメン・LED ランタン	3	台
	LED ヘッドライト	3	台
	非常用電源（停電の見張り番 Neo） → 吸引機や医療機器、携帯電話やパソコン用の電源として	1	台
	簡易ベルト担架	1	台
	背負い式救出・救助資機材セット	1	セット
	防災用ヘルメット（白）	10	個
	ビブス（メッシュベスト）	10	着
	ラクラク土のう（30枚入/箱）	60	枚
	パネル式防水壁（L字型：赤）	15	枚
	物置（屋外に設置）	1	台

## ⑥ 苦情（2件）

令和2年度の苦情は、訪問看護ステーション1件、デイサービス1件の計2件であった。

訪問看護では、リハスタッフ2名が訪問先にて、利用者家族に対する介護方法の助言や、リハ職間の会話から、利用者家族が不快な印象を受けたことによるものであった。家族には介護疲れがみられたところに、否定的にとれる発言をした（配慮に欠ける対応があった）ことが主な原因で、担当ケアマネ（当法人内）に報告、管理者・ケアマネが同行し、家族の意向等を十分伺った上で謝罪し、スタッフ間で情報共有した。

デイサービスでは、居宅介護支援事業所に対する通所介護計画書の遅延によるものであった。即日、事実関係を確認し、施設長及び管理者・係長3名で謝罪、週内に計画書を提出しつつ、管理者へ管理の徹底を指示した。

この度の件を真摯に受け止め、関係先及び利用者・家族との信頼関係を第一に基本的業務である、報告・連絡・相談の徹底、接遇・倫理面の向上、各種業務マニュアルに基づく業務の標準化の徹底を通して、よりよりサービス提供に組織全体で取り組む。

次ページより 各事業別の詳細報告

# 令和2年度 事業報告

## 特別養護老人ホーム 明翔苑

### 重点施策

1. 自立支援の取り組みは、コロナの影響が大きく外出を始めとする活動が制限され、ご利用者の目的が達成できなかった。特に前期は普段の業務に加え、感染予防対策も必要となり、現場での業務も増え自立支援への意識が低下していた。それでも後期は職員間で協力しながら苑内でも取り組める事を考え、各ユニットで料理倶楽部の再開や収穫祭、DVD鑑賞など新たな活動も出てきた。次年度も新たな生活様式の中で、ご利用者の目的が達成できるように機能訓練、口腔、栄養の取り組みを軸に質の高いケアへと繋げていく。
2. 看取り介護は、今年度9名であった。コロナ過で家族との関わりが少なく情報収集に時間がかかっていた。普段から利用者・家族が望まれる終末期を知っておくことが大切だと再認識した。これまでの看取り介護で経験した事や、職員それぞれの思いを元にカンファレンスを重ね「その人らしさ」を意識しながら取り組めた。
3. 褥瘡ゼロの取り組みは、他職種で協働しながら細かな管理ができた。発生した時にはマットレスの交換、栄養状態の確認、薬の処方など早期に対応し治癒に繋がった。今後は発生予防にも努め褥瘡ゼロを目指していく。
4. 医療との連携は、利用者の状態変化があった時でも看護師と相談しながら対応できた。退院の際にもカンファレンスで得た情報を元にユニットで対応できた。入院になる前の利用者の状態変化の記録が薄いとを感じる事もあり、次年度は濃い内容の介護記録を残していく。
5. 地域との繋がりは、福祉教育はできたが、苑内開放や地域とのネットワークの構築はコロナの影響で出来なかった。また、職員の中には地域への活動が分からない職員もあり、今後は現場職員も関わりながら進めていきたい。

### —各部門—

#### 【生活相談員】

1. 今年度の退所者は16名（看取り9名、転院3名、医療機関での死去4名）であった。
2. 退所から次の入所まで前年度10.18日であったが、今年度は13.18日で前年度よりも日数がかかった。要因として入所前日に体調が悪くなり延期や一月に3名の方の退所があり、スムーズに入所が行えなかった。このことは次年度に教訓として、いつでも数名の方の入所を常に考えておく事が必要である。
3. 定期的な営業については、今年度はコロナウイルス感染症の事もあり電話のみの営業であったが、入所の相談や入所申し込みに関しては、件数は増えてきている。
4. 介護支援専門員と調整をし、カンファレンスの日程調整は行っていたが、スムーズに行うことが出来なかった日もあった。



#### 【介護支援専門員】

1. 生活に意欲がもてるケアプランの作成については、今年度はコロナ過の中では、自宅への外出等、制限があり出来なかったが、後期については施設内で出来る事に取り組みました。
2. 利用者の体制が崩れる方には、その方に合った車椅子やテーブルに変更や褥瘡予防マットレスへの変更など、他職種で情報を共有しながら取り組みました。
3. 今年度は9名の利用者の看取りケアを行った。看取りケア後の振り返りは行えたが、コロナ過で集まってのカンファレンスは行う事があまり出来なかった。
4. 利用者との関わりは常に意識して出来ていた。今後も継続して行っていく。
5. 認知症サポーター講習は出来なかったが、福祉コンシェルジュ事業への参加など、地域に発信できた。

#### 【看護師】

1. 褥瘡予防に向けてのケア計画・評価にて、褥瘡の利用者様は減少しており、ある程度の成果は達成できた。
2. 現場からの情報等により、食事摂取量低下時には早めの対応を取る事が出来たため、重度化予防に向けて、食事の変更等の改善策を講じる事が出来た。
3. 看取り期の定期カンファレンスでは、コロナ禍にて家族を含めて行う事が出来なかった。今後、カンファも含めて、家族ともに看取り期をどのようにしたら過ごすことができるのか、検討が必要。
4. コロナ禍にて、退院カンファレンス参加は出来ずケアマネジャーに依頼する事が多かった。受診後の情報については、現場に分かり易く口頭で伝え理解してもらえた。
5. 感染症が蔓延・拡散することなく、利用者様が過ごすことができた。

※入院 ・嚔性肺炎：4名 退所人数：16名（看取り9名）

#### 【機能訓練指導員】

1. 生活維持評価表・アセスメントは定期的に行い評価できた。
2. 多職種連携に置いては、不十分な点もあった。
3. 個別に応じた機能訓練の計画は実施出来たが、利用者に応じて、実施が困難な場合もあった。
4. 日常生活の中で機能訓練を通じて、嚔下体操やレクリエーションで利用者に喜んで貰え活気に繋がる訓練が出来た。

#### 《各ユニット部門》

##### 【あさがおユニット】

- ・コロナ過で外出は計画することは出来なかったが、出来る範囲で野菜栽培を行う事が出来た。野菜栽培を行う事は出来たが、コロナの様子を見ながらと言う事で、計画的に行う事は出来なかった。来年度は計画的に行いたいと思う。野菜を植える際は、生き生きとした表情が見られるので、今後も継続して行いたいと思う。
- ・状態の変化があればユニット内で話し合い、他職種と連携して対応策を検討する事が出来たと思う。中には、少し対応が遅くなり、もう少し早めに行えば良かったと反省した

点もあるので、来年度はスピード感を意識して対応することで、重度化予防に繋げていきたい。

#### 【すいせんユニット】

- コロナ過において、面会の制限もあり、家族との関わりが少なかった。だが、普段の様子を写真に撮って報告した。面会が制限された状況だからこそ、利用者に手紙を書いて頂き、家族とやり取りが出来た事は良かった。
- 看取りケアについて、継続したケアを行っていたが、職員同士での話し合いが少なく、もっと色々出来たのではないかと感じた。
- おやつ作りなど、行事を計画出来なかった。個々での作業をしてもらって、出来る事の発見があったのは良かったと思う。

#### 【つばきユニット】

- 前年度よりこちら側から積極的に声をかけることが出来たように思う。看護との連携もとれ、食事量、介助方法、形態、排便コントロール等、利用者にとっての最善の形を提供することが出来た。継続していきたい。
- コロナ過であった為、計画は出来なかったが、ちょっとした事（歌、塗り絵、編み物等）は毎日ではないが行えた。今後は、これらの事を継続していくと共に、ユニット、フロア間でお料理倶楽部等を増やしていき、利用者同士の交流、楽しさに繋げていきたい。

#### 【ぼたんユニット】

- コロナで外出の計画を立てる事が出来なかった。
- ユニット内での倶楽部活動をあまり計画する事が出来ていなかった。後半は抹茶会や習字など集まって行う事ができたので、引き続き計画して行っていきたい。
- 倶楽部活動の計画を決まった職員しか行っていなかった為、来年度は職員それぞれが計画、実行できるようにしていきたい。
- 利用者のやりたいことは聞き出していたが、計画に移すことが出来なかった。やりたいことを聞き出す声掛けが不足していた為、意識して行っていきたい。
- 「習字をやりたい」と言っていた利用者に対して、習字をユニット内でやる事が出来た。来年度は、その方以外の利用者のやりたいことも出来るように計画していきたい。

#### 【ゆりユニット】

- コロナ過で利用者が集まってレクリエーションをしたり、外出したりする事が出来なかった。
- 日々のコミュニケーションで利用者にやりたい事を聞き出すことは出来ていたが、なかなか実行に移すことが出来なかった。
- 自立支援は、ほぼ毎日行っていたが、同じことしか出来ていなかったなので工夫して行く必要があった。
- 業務に追われることが多く、機能訓練を行っても決まった回数をやるが多かったのも、その日の状態を見て調子の良い時には違った運動をしたり、回数を増やしたり工夫

をしていきたい。

- ADLが低下した方が多くおられた為、今出来る事が維持できるように機能訓練を行っていききたい。
- 1人ずつ機能訓練を行っていたので、周りの方も一緒に出来るような工夫をしていき、楽しみを持っていただけるような環境作りをしていきたい。

#### 【ひまわりユニット】

- 11月にプレートを購入して、ユニット内でも料理作りを実施することが出来た。食材を切ったり混ぜたりと利用者が出来ることは見守りをしながらやってもらい、自分の役割や昔の家での生活を思い出してやってもらえたのではないかと思った。
- コロナの為、外出は出来なかったが、業務の隙間時間を利用して、ベランダ周りの散歩をしたり、他利用者と一緒に歌を唄って交流の場を設けることが出来た。
- 以前は食事前にバンザイ体操を行っていたが、食事介助や連れ出しに追われて出来ない事が多かった。
- 利用者からやってみたいことを聞き取りして、レクリエーションに取り入れていけたら良いと思った。
- 入浴が無い日に料理作りなどのレクリエーションを定期的実施出来れば良かった。

以上

# 令和2年度 事業報告（栄養課）

## 令和2年度 食事提供部門事業報告について

### 1. 医療との連携と栄養状態の維持・改善の取り組み

#### ①栄養ケアマネジメント

定期的に栄養ケア計画の見直しを行いながら算定を行っている。

担当者会議などで各職員からの情報・意見交換を行ない、利用者一人ひとりに合わせた計画を実施できたと思う。新入所の方については、入所後1～2週間後から栄養マネジメントを開始し、その後も定期的な見直しを実施している。

#### ②経口維持加算（I）の算定

前年度に続き、対象者の経口維持計画を作成し、算定を行った。

3月末においては29名が対象となっており、算定を継続する。

③再入院時栄養連携加算は対象者がいなかった。

### 2. 行事食、変わり献立の実施

普段の食事の中では、週に1～2回程度、変わりご飯や麺類の提供を行った。季節感のある献立になるよう旬のものを取り入れたり、お弁当や敬老会のお祝い膳など行事にちなんだ食事提供もできた。行事の際は食事にカードやお品書きを添え、雰囲気作りにも力を入れた。また、特養では月に1回料理やおやつ作りを行った。

### 3. 安心、安全な食事提供の実施

毎月1回、厨房委託業者と施設職員が集まり、意見交換や試食会を行った。

都度、利用者や職員から聞き取り調査などを行ない、意見を献立に反映させ、食事内容の改善もできた。食事の彩りや香り、新メニューの導入などについては今後も検討していく必要がある。

### 4. 地域への貢献、認知

10月に城北公民館で、フレイルについて栄養講座を実施し地域交流や貢献ができた。また、明翔苑全体の米は（株）カンドーファームのつや姫を使用、8月、9月には田尻農園のシャインマスカットやコトピーを提供。地産地消を心がけた。

別紙 1 行事食年間実施表

	実施献立
4月	お花見献立、変わりご飯、麺類など
5月	母の日献立、変わりご飯、麺類など
6月	父の日献立、変わりご飯、麺類など
7月	七夕献立、うな丼、麺類など
8月	夏野菜献立、ぶっかけそうめんなど
9月	敬老会お祝い膳、おはぎ、変わりご飯、麺類など
10月	お月見献立、栗ごはん、変わりご飯、麺類など
11月	秋の味覚献立、変わりご飯、麺類など
12月	クリスマス献立、年越しそばなど
1月	おせち料理、七草粥、新年会献立など
2月	節分献立、変わりご飯、麺類など
3月	ひな祭り献立、ひな祭りカフェ（おやつバイキング）、ぼたもち 変わりご飯、麺類など

以上

# 令和2年度 事業報告

## 短期入所生活介護

### 重点施策

#### 1. 自立支援ケアの強化

個々のアセスメント表を作成し、統一したケアと自立支援が行えたと思う。また、利用者の意見を聞き入れ、その方が過ごしやすい環境整備が出来た。その際、送迎時や電話で家族に居宅での様子や環境なども聞き、入所前の居室準備やケアに活かせることが出来た。

#### 2. 多職種・家族との連携強化

- ・体調の変化があれば、直ちに看護師に報告し、対応を行った。また、食事面では管理栄養士とも連携し、適切な食事管理に努めた。
- ・担当ケアマネジャーと連携し、利用者の状態についてしっかり情報共有できた。
- ・コロナ過で家での様子や体調確認など事前に電話連絡をし、様子を聞くことにより一層家族様との信頼関係が築くこと出来た。
- ・忘れ物があった為に、家族に迷惑をかけた事もあり、来年度には無くなるように体制を整えていきたい。

### サービス目標

#### 1. 自立支援に向け、毎日その人らしく生活が過ごせるようなサービスを提供していく。

- ・24Hシートを更新・活用し、職員同士でケアの統一に向けて話し合いが出来た。
- ・お料理倶楽部を計画し、それぞれに役割を決め、利用者主体で作業をして頂いた。
- ・外出を企画していたが、コロナ過により外へ出る楽しみがなかったのは残念であったが、ユニット内で出来る楽しみを利用者個々に見つけ実践した。

#### 2. 中重度者・認知症のご利用者の受入を強化し、他職種・家族と連携し対応していく。

中重度・認知症のご利用者の受け入れは、極力断らずに受け入れが出来たと思う。

(平均介護度は前年度 3.05、今年度 3.20) 今後も家族・ケアマネジャーと情報共有しながら、在宅での生活を維持出来るよう、中重度の対象者の受入れを更に強化してしていく必要がある。

### 業務目標

#### 1. 利用者の意向やケアプランに沿った 24H シートの作成・見直しを常に行う。

定期的に 24H シートの見直しを行い、利用者の意向・ケアプランに基づいたサービスを提供するよう、作成・見直しを行えた。今後も継続して実施するように、職員間で連携していく。

#### 2. 利用者の身体状況を把握し、ユニット内や他職種、家族と情報共有していく

会議に関わらず、業務中でも職員間でコミュニケーションをしっかりと取り、情報共有

をしてケアを行えていると感じている。今後も情報共有等をしっかり行い、ケアを行っていききたい。

3. 職員一人ひとりが意識して利用者の希望や生活意欲が上がる環境を作る。  
利用者個々に希望等を聞き、過ごしやすい環境を職員同士で話し合い、なるべく近い環境を提供できたと感じる。
4. 認知症の理解と統一したケアを目指す。  
認知症に関する知識の向上に努め、情報の共有・他職種連携で統一したケアを行ってはいるが、十分な結果に結びつかず、試行錯誤しながらケアをしている状態。今後も、研鑽に努め、ケアをしていきたい。

#### ユニット目標

1. 日常動作が自分で出来るように、個々のニーズに合った環境を提供し、在宅での生活を維持していく。
  - ・入所前に個人情報などで居宅の環境に近づけ自立を促せた。
  - ・利用者が動きやすく安全な環境をユニット内で話し合い提供出来た。
  - ・家族の聞き取りがもう少し出来れば良かった。

#### 生活相談員

1. 定期的な営業活動を継続し、居宅・包括の介護支援専門員や病院の相談員と馴染みの関係を深めていく。又、情報収集や情報提供を行っていく。
  - ・定期的な営業活動行いう事が出来ず、電話でのやり取りが多くなってしまった。今後は計画的に営業スケジュールを立て、営業を行えるようにしていきたい。
2. 毎月の利用調整を行い、可能な限り急な依頼でも受入れが出来るよう調整していく。
  - ・稼働率は、前年度 93.60% 今年度 93.0%
  - ・毎月の利用調整はうまく出来たと感じている。急な受入れ希望には、空室があればできる限り受け入れるようにした。急なキャンセルが出た際の対応が遅れ、空室が続いてしまったこともあったので、ケアマネジャーと連携し、臨機応変に対応していくよう努める。
3. 特養の相談員と空床状況を確認しながら、空床利用を行っていく。  
空床利用件数 前年度 34日 今年度 28日
  - ・前年よりは日数減少しましたが、特養の相談員と連携して空床利用を活用する事が出来た。今後も連携を取りながら空床の活用に努める。
4. 利用者・家族が望む生活について情報収集し、多職種に情報提供していく。
  - ・情報収集をきちんと行い、出来る限り利用者・家族の要望に応え、その情報を多職種に情報出来たと思います。

## 看護

1. 利用者の身体状態・服薬状況・排便状況等を介護職と情報共有していく。  
家族との情報ファイルのやり取りにて、身体状況等の把握をする事が出来、介護職との連携も出来た。
  
2. 利用者の状態管理や異常時の早期発見の対応を行い、かかりつけ医に報告し指示を仰ぐ。また、必要な情報を介護職へ報告・共有する。
  - ・利用者かかりつけ医との連携はスムーズに行えたが、担当ケアマネジャーとは、行き違いが発生したりし、不十分なところがあった。
  
3. インフルエンザ・ノロウイルス、他の感染症の予防と発生時の拡散防止をマニュアルに従って的確な指示を出す。又、必要に応じて見直しを行う。
  - ・感染症については、ノロウイルス・インフルエンザの発症者、蔓延もなく終える事が出来た。今後も感染症対策を継続して行う。現在は、コロナウイルスに対する対策をしっかりと行う事が重要と考える。

以上



# 令和2年度 事業報告

## 通常規模型 通所介護事業所 お泊りデイサービス（介護保険外） 総合事業（通所型サービスA）

### 重点施策について

#### —介護、看護部門—

- ・在宅生活を継続していくための自立支援
- ・今年度はコロナ禍ということもあり、利用中止が多くあった年となりましたが、在宅生活を継続していく為のプログラムとして、身体機能向上を目的とした機能訓練士による個別訓練の提供、脳トレーニングやレクリエーション（脳トレーニング・音楽療法等）を実施し、現状の身体機能を維持し、住み慣れた在宅生活が送れるように取り組んだ。デイ利用時の様子を細目に様子観察することで、各関係機関（居宅、訪看、家族等）と連携し改善点を検討しながらサービスを提供することが出来た。

### プログラム実施報告

#### ※脳トレーニング、音楽療法

- ・間違え探し、計算問題、クロスワードを実施、問題回答が日々向上することで、個々の認知能力向上につながった。
- ・ピアノ伴奏により歌を唄うことで、利用者の精神的な安定、自発性・活動性の促進を養い。意思疎通が困難な方でもコミュニケーションがとりやすくなった。

#### ※創作活動

- ・塗り絵、ちぎり絵、カレンダー作りを実施し、完成品を掲示することで、達成感を感じさせ、意欲の向上になった。

#### —機能訓練指導員—

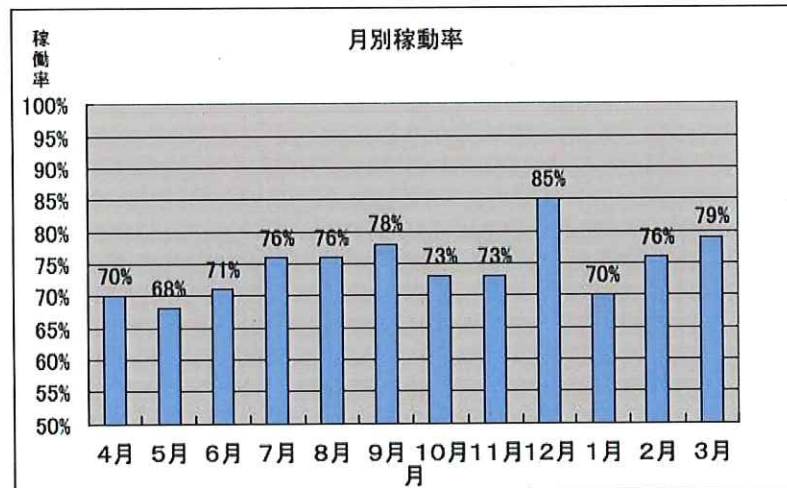
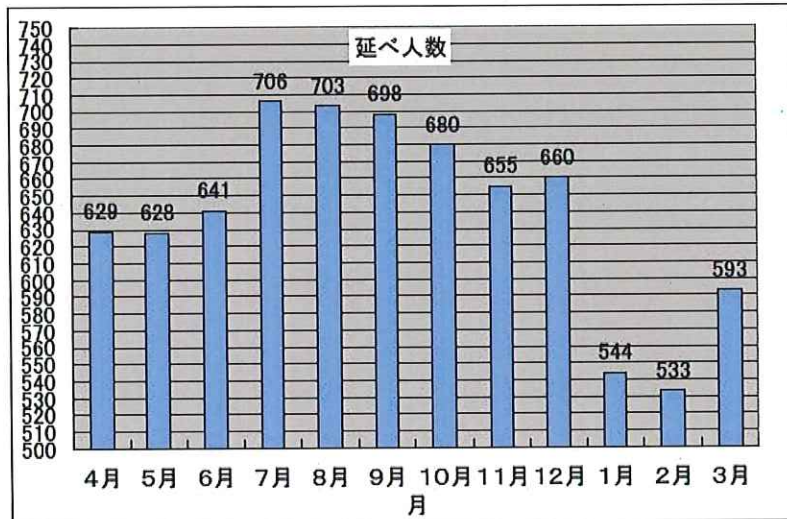
##### ○機能訓練

- ・令和2年度個別機能訓練について  
計画書の作成時期や説明日、目標期間の設定等に不備があり、修正を行った。これを活かして、今後、不備がないようにしていきたい。  
評価を数値化したものを採用した。前回と比べての変化をわかりやすくしたことにより、介護支援専門員等への報告がスムーズにいったこともあり良かったが、まだまだ改善の余地はみられるので今後の課題にしていきたい。
- ・訓練実地について  
基本的に個別での対応が必要な方以外は、小集団（5人以下）で行った。訓練の結果、「歩行状態が良くなった」「身体の動きがよくなった」等の意見を頂くことも増えてきたが、反対に「だんだん悪くなっている」「良くならない」等の意見を頂くこともあったのできちんと受け止め、訓練の内容や対応等、見直していきたい。

○通所介護 平均介護度 2.09 平均稼働率 71.5% 年間利用延べ総数 7,670 名

令和 2 年度利用者状況

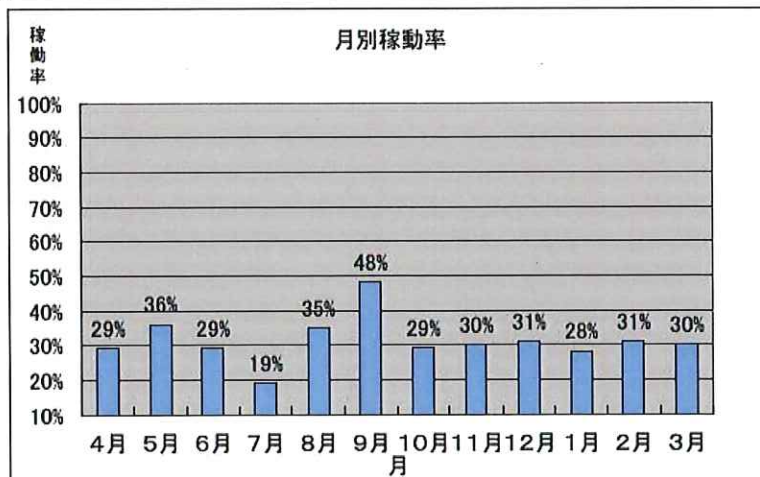
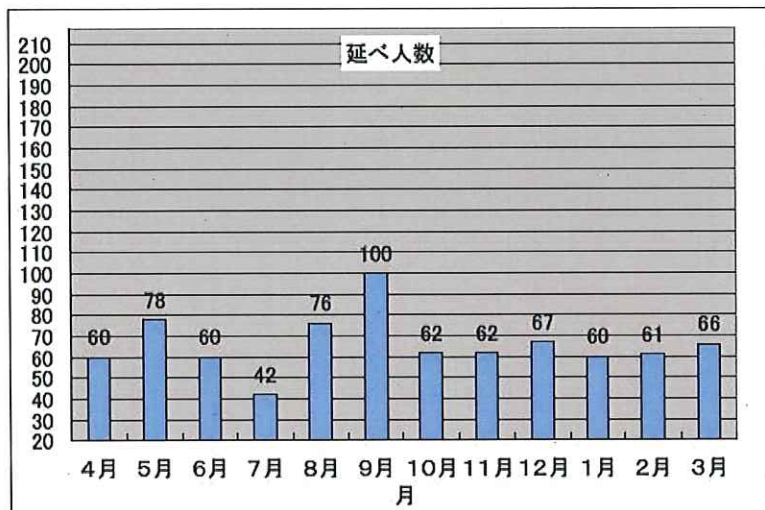
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1日	28	21	23	24	26	24	24	17	26	7	19	21
2日	21	18	26	22	19	27	24	22	24	18	20	18
3日	26	10	26	26	22	22	23	26	23	12	21	19
4日	24	20	19	21	25	27	14	24	27	21	21	19
5日	10	25	23	16	28	24	20	18	27	22	22	20
6日	25	28	19	22	25	16	22	26	17	22	17	17
7日	27	21	14	26	26	13	25	23	24	10	18	20
8日	25	22	21	27	22	24	20	18	25	17	20	21
9日	21	19	23	22	17	26	24	21	25	16	17	18
10日	25	13	25	24	23	22	24	23	21	10	18	17
11日	21	19	22	18	24	28	18	22	26	13	22	20
12日	11	25	23	14	24	22	26	16	23	17	19	20
13日	22	23	21	20	23	17	27	25	15	21	20	21
14日	22	20	13	25	23	23	23	24	20	20	17	21
15日	21	20	18	23	19	24	24	13	22	23	21	21
16日	19	19	21	20	10	27	22	20	23	22	23	22
17日	22	13	25	24	22	22	24	23	19	16	15	19
18日	18	20	22	22	26	29	18	23	25	22	17	19
19日	8	26	24	16	21	24	22	19	21	22	20	19
20日	20	20	23	23	25	14	21	26	11	17	18	17
21日	25	20	13	22	27	22	21	22	19	17	18	16
22日	21	21	20	27	25	25	19	19	23	19	20	20
23日	20	20	25	27	17	26	22	22	23	20	20	21
24日	24	13	25	27	22	23	26	26	18	18	17	21
25日	20	25	22	26	27	27	14	28	25	21	17	22
26日	11	26	23	26	23	26	21	21	19	18	19	18
27日	23	25	21	18	25	16	20	27	15	19	16	17
28日	24	21	15	25	26	25	25	21	21	16	21	22
29日	25	21	21	25	21	26	20	16	21	17	23	23
30日	20	21	25	23	16	27	24	24	21	18	24	24
31日	△	13	△	25	24	△	23	△	11	13	△	21
月平均												
合計	629	628	641	706	703	698	680	655	660	544	533	593



○お泊り事業 平均稼働率 31% 年間利用延べ総数 814 名

令和 2 年度利用者状況 (お泊り利用)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1日	4	2	3	0	5	5	4	4	2	2	2	3
2日	4	3	3	0	4	3	5	3	2	2	3	2
3日	3	2	2	1	2	3	4	3	3	4	4	2
4日	3	4	2	2	4	4	3	0	4	2	3	2
5日	2	4	2	1	2	5	1	0	5	2	2	3
6日	3	2	2	1	1	3	2	2	4	2	3	3
7日	3	2	0	1	3	3	1	5	1	3	4	6
8日	3	1	1	1	4	2	1	3	5	3	1	1
9日	2	3	1	0	3	1	1	1	2	2	2	2
10日	2	2	1	1	2	2	3	1	2	2	1	1
11日	4	4	1	2	3	1	2	0	2	2	1	2
12日	3	4	1	1	2	4	3	0	2	3	1	2
13日	4	2	4	0	2	3	2	4	2	2	3	3
14日	3	2	2	2	2	3	0	2	2	3	3	6
15日	2	2	1	0	2	4	1	1	3	2	1	1
16日	2	2	1	0	1	3	2	1	2	4	0	1
17日	2	1	1	1	1	3	3	1	2	5	2	0
18日	3	2	3	3	3	3	2	0	1	1	2	0
19日	2	2	3	2	1	5	2	0	1	0	2	0
20日	1	1	4	1	1	5	2	1	0	0	3	2
21日	1	1	2	3	2	4	0	4	0	0	3	4
22日	1	2	2	1	6	5	0	4	1	1	0	2
23日	2	4	3	3	3	4	1	3	0	3	2	3
24日	2	3	2	2	1	3	2	3	0	1	1	3
25日	5	5	3	2	2	3	1	2	1	1	1	1
26日	3	4	3	2	1	3	1	3	3	2	2	1
27日	4	2	3	1	2	2	3	3	3	1	4	2
28日	4	3	2	1	2	4	2	3	4	2	5	7
29日	3	4	1	2	4	5	2	3	4	1		1
30日	0	3	1	1	3	2	3	2	2	1		2
31日		0		4	2		3		2	1		1
月平均												
合計	80	78	60	42	76	100	62	62	67	60	61	66



以上

# 令和2年度 事業報告

## カラフルケアプランセンター

### I 基本方針

1. 利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるように配慮して支援を行えた。
2. 利用者の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、利用者の選択に基づき、適切な保健医療サービス及び福祉サービスが、多様な事業所から、総合的かつ効率的に提供されるよう配慮して支援を行えた。
3. 居宅介護支援の提供に当たっては、利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立って、利用者に提供される居宅サービス等が特定の種類又は特定の居宅サービス事業者に不当に偏することのないよう、公正中立に行えた。
4. 事業所所在地が令和1年10月に西浜佐陀町から大輪町へ移転し1年6カ月が経つ。中央地域包括支援センターから新規担当の相談は多く、他法人の有料老人ホームからの担当依頼もあった。営業範囲を明確にしてからは、中央地域包括支援センター以外の包括支援センターからの支援の新規担当の相談も多くあった。しかし、令和2年12月ごろからは、受け持ち件数を超えるため断ることあり、一度断るとその後の支援や介護の新規担当の相談はない。

松江市介護保険課から、認定審査委員就任の依頼があり、引き受けた。

今後も、松江市や地域包括支援センター、医療や介護サービス事業者はもちろん、地域住民との連携を取るようにする。

### II 重要施策

令和2年度はケアマネ3名体制で特定事業所加算Ⅲを算定している。特定事業所加算Ⅲの算定要件である、配置人数や、サービスの提供体制、地域包括支援センターとの連携等を確実に実施するために①～⑤は算定要件項目を重要施策とした。

項目①～④は計画通り行えたが、⑤に関しては、実習協力の依頼はなかった。今後も、①～⑤は継続しケアマネジメントの質の向上に努める。

項目⑥は広報を活用し相談窓口の機能があることは宣伝した。公民館活動の手伝いの参加等、地域交流の機会を持つ予定だったが、新型コロナウイルスの影響で行事の縮小で積極的に地域へ出ることができなかった。実績としては、城北公民館文化祭の手伝いの参加と、城北公民館から出前講座の依頼が2件あった。

また、大輪団地地域交流スペースで定期的に行うことが決まった、なごやか寄り合い事業へ参加者として出向き、地域の方の声を聴くようにした。

#### 重点施策内容

- ①利用者に関する情報やサービスの提供にあたって、留意事項などの伝達を目的とした会議を定期的開催（週1回以上）
- ②24時間連絡体制を確保し、必要に応じて利用者などからの相談に対応
- ③介護支援専門員に対し計画的に研修を実施



- ④地域包括支援センター等が実施する事例検討会等に参加
- ⑤介護支援専門員実務研修における実習等に協力または協力体制を確保
- ⑥ふくしなんでも相談窓口及び ACP 相談窓口

今後について

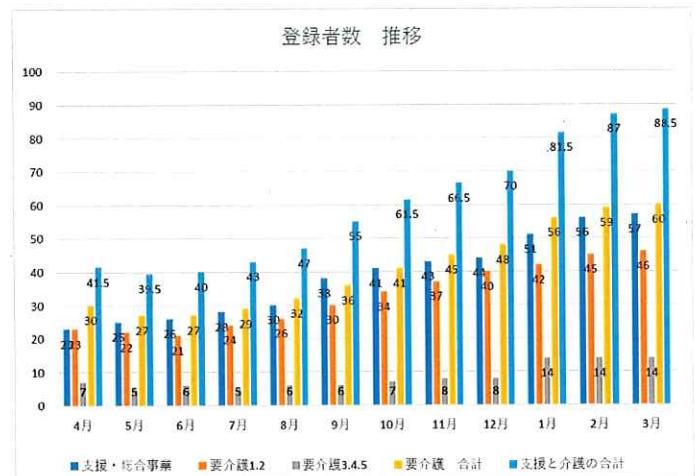
営業範囲を松江市全域とし営業活動を行い、新規相談は増えた。ケアマネ3名で担当できる件数に限りがあり特に支援は受け持ち件数枠がいっぱいになった。今後の支援の新規相談は受けること難しくなるが、①城北公民館区と北田町、南田町限定とし地域を絞る。又は、②豊心会のサービスを希望している。等、事業所内で取り決めを行い可能な範囲で支援の新規相談も受けることにする。

カラフル大輪町の特徴であったお泊りデイサービスが5月末で終了になる。泊まれる安心から、カラフルデイサービスセンターを希望することがあったが、泊りの実績は少なかった。

地域の公民館活動の参加や出前講座の開催等を通じ、地域アセスメントを行い、その地域にあったサービスや地域の仕組みができるように努め、今後の事業展開にも活かす。また、「地域共生社会実現に向けた取り組みの計画」の実施をする。

R2年度 担当数 推移

	登録者数				
	支援・総合事業	要介護1.2	要介護3.4.5	要介護 合計	支援と介護の合計
4月	23	23	7	30	41.5
5月	25	22	5	27	39.5
6月	26	21	6	27	40
7月	28	24	5	29	43
8月	30	26	6	32	47
9月	38	30	6	36	55
10月	41	34	7	41	61.5
11月	43	37	8	45	66.5
12月	44	40	8	48	70
1月	51	42	14	56	81.5
2月	56	45	14	59	87
3月	57	46	14	60	88.5



以上

# 令和2年度 事業報告

## カラフル訪問看護ステーション

### ○サービス目標について

1. コンプライアンスを遵守し、適正な制度運用を行う。

今年度は実地指導もあり、スタッフ全員でコンプライアンス厳守に取り組むことができた。また、改善すべき点についても全員で相談して改善に取り組んだ。

2. 多職種連携を視野に入れ、「顔の見える関係作り」を心掛ける。

開業から2年目となり、全員が多職種とスムーズな連携を図ることができるようになってきている。今後さらに、法人内外で顔のみえる関係を築き、連携を深めていく必要性を理解して利用拡大を図っていききたい。

3. 最期の迎え方を利用者、家族と共に考えられる存在となる。

看取り、最期の迎え方については在宅サービスに於いて大きなテーマであり、それぞれが自分なりの考えをもって利用者に向き合っていけるよう努力したい。

4. 高い医療ニーズに応えられる知識や技術を習得したチーム作りを目指す。

在宅での高い医療ニーズに全員が同レベルで対応できるよう知識、技術の向上に努力した。今後もさらにスキルアップし信頼される体制づくりをしていきたい。

### ○業務目標の評価

1. 24時間365日「断らないステーション」として活動していく。

- ・常に基本姿勢として依頼は全て受けていくように努めた。
- ・居宅や病院の相談員に対して具体的にアピールするよう努め、徐々にではあるが信頼いただき新規利用者獲得につながっていると考える。

2. 1時間訪問を基本として利用者を増やしていく。

- ・30分訪問の依頼が多いのが現状で、介護保険による訪問の約半数が30分訪問となっている。単価が安く移動時間などを考えると、1時間訪問の必要性があればケアマネに提案していくことも必要と考える。

3. ステーションの強みを増やす。

- ・スタッフ一人一人が得意分野を持ち、アピールすることが少しずつできてきている。今後もさらに知識を深めステーション全体の強みを増やしていきたい。
- ・訪問リハビリでは担当を固定せず、複数スタッフで訪問し評価、ディスカッションするように努めた。これにより多角的な視点で利用者を見ることができ、利用者の満足度を高めることができたと考える。
- ・特定看護師の資格取得ができたので、今後各方面と連携、検討しステーションの強みとして生かしていきたい。

4. 積極的に研修に参加し、スキルアップを図る。
  - ・コロナ対策のため研修参加は思うようにできなかったのは残念だった。
  - ・ステーション内でのケースカンファレンスや勉強会は毎月実施でき、定着させることができた。
  - ・各々が研修で得たものを伝達していく機会がなかったので、今後伝達研修も取り入れていきたい。
  - ・訪問リハビリ～オンライン研修で嚥下、難病、ポジショニングについて学習できた。
  
5. 朝のカンファレンスの継続と内容の充実を図る。
  - ・開業当初から継続して実施しているが、利用者の情報の共有、スタッフ同士の意見交換。
  - ・ミニカンファレンスの場として定着している。
  - ・看護師、セラピスト間の情報交換に役立った。
  - ・さらに充実を図るため、内容については今後、検討が必要と考える。
  
6. 訪問リハビリの充実を図る。
  - ・精神科、呼吸リハビリについては研修に参加できなかった。今後、機会があれば参加していきたい。
  - ・利用者目線での対応を心掛け、専門職としてスキルアップを図ってきた。利用者、家族、ケアマネ他、多職種から信頼できる存在と認めていただけるよう切磋琢磨していきたい。
  
7. 利用者獲得のための活動を行う。
  - ・コロナの影響があり、計画的な営業は困難な状況の中、できることを考えて営業活動を行った。  
パンフレットの郵送、カンファレンス時に相談員とコミュニケーションを取る、電話での営業などを実施した。
  
8. 地域貢献及びステーションの認知度を上げる活動を行う。
  - ・コロナの影響で地域活動の参加は思うようにできなかった。
  - ・出前講座については令和3年度に実施していく。
  
9. 施設内の在宅サービス間の連携を図る。
  - ・居宅と連携、相談をできるだけ密にするように心掛けた。
  - ・当居宅からの依頼が少ない状況なので、訪問看護に繋がるよう連携強化していく必要がある。
  - ・デイサービスと共通の利用者もあり、連携を密にすることで利用者に満足いただけるサービスの充実を図っていけるようにしていきたい。カラフルのサービスを利用したいと認めていただける、切れ目のないサービスの実現を目指す。

10. 多職種に対して密な連携を図り、相談相手となれるような対応をする。

- 多職種に対し、密な報告、連絡、相談を実施するようにスタッフ一人一人が心掛けていたと感じるので今後も継続していきたい。

以上



# 令和2年度 事業報告書

## 配食サービス・食の自立支援事業

在宅の高齢者を訪問し、定期的に栄養バランスの摂れた食事を提供することにより、ひとり暮らし等の高齢者の安否を確認するとともに、疾病及び介護予防対策として健康の維持に付与し、住み慣れた地域で安心して生活が維持できるように支援することを目的とする。

平成27年度10月1日から開始。

平成29年度10月から、365日昼食及び夕食の配達を開始。

平成30年9月から松江市「食」の自立支援事業開始。

独居で食事の用意をすることが困難な方や療養食やゼリー食などの特別食をご家族様が作ることが困難な方が利用されている。

また、ご家族様が不在でご飯が作れないときのみ利用される方、ヘルパーさんが入る日以外は利用する方がおられる。

土日の配達をしていない他業者の弁当と併用をして利用されている方もいる。

当法人のデイサービス、ショートステイ、居宅支援事業所のサービスを利用していない方もおられる。

R3年5月1日現在

①明翔苑配食サービス利用者数 38名

②松江市「食」の自立支援事業利用者数 7名

③ ①②の内カラフル通所サービス利用者数 10名

④一日平均食数 42食

お弁当の配達で自宅に訪問した際には、ニーズに合わせて安否確認・食後薬の服薬確認・お弁当の温めを行なっている。

主食はいらなと言われ、主食なしで配達をしている方もおられる。

以上

## 令和2年度 外部研修等参加実績

参加日	職種	主催	研修内容
5月1日(金)～ 8月31日(月)	施設長 総務課長 主任事務職員	全国老人福祉協議会	令和2年度 事務職員研修
7月15日(水)～ 16日(木)	特養・DS 介護職員	島根県人材センター	令和2年度 福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程【初任者コース】
7月29日(水) 8月6日(木)	施設長 特養課長 看護主任	松江市介護保険課	高齢者施設感染症対策研修
7月30日(木)～ 31日(金)	居宅ケアマネ	県社協	令和2年度コミュニティソーシャルワーク実践基礎研修(後期令和2年10月14日(水))
8月6日(木)	部長 看護師	島根県高齢者福祉課	高齢者施設における新型コロナウイルス感染症対応研修会
8月10日(月)～ 11月2日(月)	居宅ケアマネ	島根県人材センター	主任ケアマネ研修
8月22日(土)～ 30日(日)	訪問看護	高齢者福祉課	令和2年度 訪問看護「精神科訪問看護研修」
8月28日～R3 4月19日	施設長 部長 課長	一般社法人地域ケア 総合研究所	経営者・幹部寺子屋(9月26・27日 10月30日11月1日 1月16・17日 2月27・28日)
	居宅 施設ケアマネ DS 訪問 居 宅	一般社法人地域ケア 総合研究所	ケアマネメント寺子屋(8月28・29日 10月16・17日 11月27・28日 3月12・13日)
		一般社法人地域ケア 総合研究所	チームレス寺子屋(8月29・30日 10月17・18日 11月28・29日 3月13・14日)
	特養課長 在宅課長	一般社法人地域ケア 総合研究所	診療・介護報酬対応寺小屋(9月12・13日 12月19・20日 2月20日 4月17・18日)
9月23日(水)・ 24日(木)	カラフルDS	県社協	令和2年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修「チームリーダーコース」
9月28日(月)	介護職員 DS介護職員	県社協	新人マナー研修
10月29日(木) 30日(金)	介護主任	県社協	令和2年度認知症対応型サービス事業管理者研修
11月17日(火)	事務職員	(株)おはつ	訪問看護療養費ノウハウ講座
11月18日(水)	訪問看護	松江赤十字病院	高齢者の意思決定支援について
11月中旬～12月 下旬	訪問看護	島根県難病対策協議会	令和2年度 難病医療従事者研修1
11月24日(火) ～12月21日 (月)	事務主任	県社協	令和2年度社会福祉法人会計実務研修【中堅コース】(eラーニング)
11月25日(水) 26日(木)	特養課長	県社協	令和2年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修「管理職員コース」
11月30日(月)	DS係長 居宅所長	松江市介護保険課	介護予防・日常生活支援総合事業見直しに関する説明会
12月4日(水)	DS係長 主任	県社協	令和2年度しまねDWAT登録研修
12月15日(火)	法人監事	県社協	令和2年度 社会福祉法人監事研修
12月18日(金)	居宅	包括	令和2年度 第1回包括公開講座
12月21日(月)	リーダー	島根県健康福祉部高齢者 福祉課	2020年度オンラインユニットリーダー研修
1月14日(木)	居宅	松江地域 介護支援専門員協会	新型コロナウイルス感染症対策研修会
2月19日(金)	施設長 在宅係長 ユニットリーダー	県社協	令和2年度しまねDWAT継続研修
2月5日(金)	部長・課長 係長・主任	一般社団法人全国個室コ ーット型施設推進協議会	令和3年度介護報酬改定勉強会
2月12日(金)	居宅	島根県防災部防災危機 管理課	令和2年度要配慮者・避難行動要支援者実務研修
2月13日(金)	施設長・ 部長・課長 係長・主任	一般社法人地域ケア 総合研究所	寺子屋：加算に関する研修

2月下旬～ 3月下旬	訪問看護	島根県難病対策協議会	令和2年度 難病医療従事者研修2
3月5日(金)	部長・課長 主任	県社協	令和2年度「地域における権利擁護体制づくり」
3月6日(土)	訪看	島根県看護協会	令和2年度 訪問看護関連事業報告
3月19日(金)	介護職員	島根県高齢者福祉課	高齢者虐待の防止に係る研修会

### 令和2年度 内部研修等参加実績

研修日	講師	内容
5月3日(日)	管理栄養士(明翔苑)	車を安全に事故なく運転するには
6月17(水)	衛生委員会(明翔苑)	感染:コロナウイルス
7月9日(木)～12日(日)	主任介護士(明翔苑)	感染:コロナウイルス実技研修
7月15日(水)	火災担当者(明翔苑)	避難訓練:夜間 日中
7月29日(水)	衛生委員会(カラフル大輪町)	感染:コロナウイルス実技研修
8月16日(日)～24日(土)	連携室(明翔苑)	感染:コロナウイルス実技研修
10月9日(金)	身体拘束廃止委員会(カラフル大輪町)	スピーチロック
10月21日(水)	身体拘束廃止委員会(明翔苑)	高齢者虐待 身体拘束防止の取り組み
11月3日(火)	身体拘束廃止委員会(カラフル大輪町)	高齢者虐待 身体拘束防止の取り組み
11月11日(水)	火災担当者(カラフル大輪町)	避難訓練:日中
11月18日(水)	施設長(明翔苑)	原子力災害対策 機器点検 訓練
12月17日(木)	褥瘡予防委員会	褥瘡予防
1月20日(水)	施設長	震災
2月	看護師・ケアマネ	身体拘束(予定)
3月	看護師・ケアマネ	褥瘡予防(予定)